令和６年度

総合型選抜Ⅰ期 問題 大学

課 題 作 文

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
② 受験票に記載された学科と解答する学科に相違がないか、確認すること。
また、健康栄養学科・看護学科・理学療法学科・作業療法学科の受験者は、受験票に記載された科目と問題冊子に相違がないか確認すること。異なる場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
③ 開始の合図の後、解答用紙に「**氏名**」、「**受験番号**」を記入すること。受験番号は算用数字で記入すること。
④ 試験時間は、60 分です。
⑤ 句読点は１字として数えること。
⑥ 下書きは、問題用紙の余白・裏面を使用すること。
⑦ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
⑧ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

令和６年度 総合型選抜Ⅰ期 問題（課題作文） 理学療法学科

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

Ａは、高校の運動部に所属していたが、高校２年生の夏の試合中に膝関節に大ケガをしてしまいました。受傷後、スポーツ復帰に向けて理学療法が開始されましたが、復帰まで６か月は必要との診断でした。

Ａのケガから復帰に至るまでの経過を以下に示します。

受傷後、理学療法が開始されましたが、初めのころは、「痛いから」「誰とも会いたくない」といって、理学療法を休みがちでした（Ⅰ.ショック）。

その後も「痛いのが治れば大丈夫」、「これくらいなら、すぐに部活動に戻れると思う」などと言って、理学療法には消極的でした（Ⅱ.否認）。

受傷後２か月が経過して、以前よりは理学療法を実施するようになったものの、思うように身体が動かないことで自分の膝に当たったり、「ほんとに戻れるのかなあ」と理学療法士に嘆くこともよくありました（Ⅲ.悲しみと怒り）。

その後、本人も前向きになり順調に理学療法も進み、60％ほどの回復具合まできたところで、本人から「部活で皆より出遅れてしまうため、明日から部活動に参加して、練習しながら自分で治していきます」と連絡があり、理学療法に来なくなりました（Ⅲ.悲しみと怒りからくる焦り）。

約１か月後、Ａから「膝が痛くて歩けなくなってしまいました」と訴えがありました。再受診の結果、回復していない膝に負担をかけたことによる再発で１か月間の安静を指示されました。

再発後は、Ａは自分自身の行為に内省し、家族、友人、理学療法士とも協力し合い、理学療法も積極的に励むことができ、受傷から８か月でスポーツ復帰をすることができました（Ⅵ.適応からⅤ.再起）。

下図は、障がいの受容（精神的な受け入れ）の過程を示したものである。

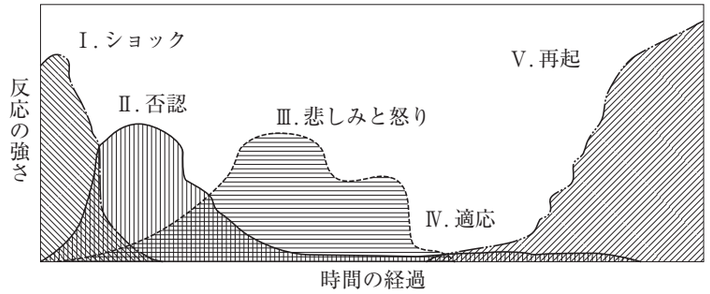

図　障がい受容の精神状態の過程
（Dennis Drotar（1975）により提唱されたモデル）

設問　Ａは、受傷から復帰するまでに６か月の予定が８か月かかってしまいました。あなたが、Ａの友人と仮定してＡに対してどのような寄り添い方ができたか、図の障がい受容の過程、理学療法士を目指す立場を踏まえて、あなたの考えを800字以内で述べなさい。